

令和6年度 東近江市地方創生施策の実績

定住移住

●定住移住補助金（住宅取得又は住宅改修費の一部を補助）

区分	対象	補助上限額	実績
新築等 取得	中学生以下の子どもがいる世帯	上限20万円（1/5）	73件 14,600千円
	Uターン者	上限20万円（1/5）	25件 5,000千円
	39歳以下で結婚し新生活をはじめる世帯	29歳以下 上限60万円 それ以外 上限30万円	0件 0千円
改修	市民（住み続けるための住宅リフォーム）	上限15万円（1/10） 工事費50万円以上	115件 14,850千円

◇オーダーメイド移住体験～Visit Higashiomi～



東近江市への移住を考えている人を対象に個々の移住希望者に合ったよりきめ細かい体験ができるよう、1グループ4人程度の少人数での移住体験事業を実施しました。

利用数 5組 8人

●移住相談会

	開催日	参加組数
移住相談会（東京）	5月25日	3組
	7月6日	4組
	8月3日	7組
	9月21日	11組
	9月22日	11組
移住相談会（大阪）	6月29日	4組
	7月20日	14組
	11月30日	7組
	3月1日	9組



●婚活支援

登録者数 93人 成約数 4組

◇神様もそっと見守る縁結び@太郎坊宮

独身男女の結婚に向けた出会い創出などの支援を行う東近江市結婚サポート連絡会と東近江市の共催により、10月6日に太郎坊宮で婚活イベントを開催しました。

参加者数：男性14名 女性15名
カップリング：7組



●移住相談を通じた移住者

移住実績 3件 7人

●空家バンク

◇東近江市住まい創生センター

令和3年6月15日に一般社団法人東近江市住まい創生センターを設立し、空家・空店舗の所有者と空家・空店舗を利用したい人とのマッチングを進めています。

空家バンク登録・成約件数
（令和7年3月31日現在）

登録：空家を登録して「売りたい」「貸したい」件数
希望：空家を「買いたい」「借りたい」件数

登録件数	45件	内売買	37件	希望件数	18件	内売買	12件	成約数	27件	内売買	25件
		内賃貸	5件			内賃貸	2件			内賃貸	2件
		どちらでも良い	3件			どちらでも良い	4件				



●企業誘致

支援メニュー	対象	支援内容	実績
立地促進奨励金	製造業、運輸業、情報通信業、研究機関、宿泊業	新設、増設による新たな投資により取得した資産にかかる固定資産税相当額（上限年額1億円×3年間）	33件
商業施設立地促進奨励金	商業	市が指定する区域内において自ら小売事業を行う事業者が投下固定資産総額 1億円以上 建築面積 3千平方メートル以上の施設を新設した場合（上限年額5千万円×6年間）	0件
雇用促進奨励金	東近江市の住民を新規雇用（正社員）し、継続して雇用した実績	新規雇用者数×10万円（上限2千万円×3年間）	9件

●空店舗改修・起業支援

支援メニュー	支援内容	実績
空店舗改修支援事業補助金	空店舗を利用し、開業する事業者に対して改修費用の50パーセントを補助（上限100万円）	2件
中心市街地商業等空店舗等再生支援事業補助金	中心市街地にある空店舗を利用して開業する事業者に対して、店舗改修費用の50パーセントを補助（上限300万円）	1件

◇女性のための創業塾

カフェ、サロンなどの創業に興味があり独立開業を考えている女性を対象に、必要な基礎知識などを学ぶ講座の開催を支援しました。

参加者28人
開業10人(うち市内6人)

主催 東近江市商工会



◇SATSUKI-RO（夢をかなえる古民家）

新たな活動や出会い、挑戦の場であり、八日市駅周辺のにぎわいを創出する拠点の運営を支援しました。

利用者数 5,152人



レンタルキッチン



↑コワーキングスペース



←レンタルスペース

運営：一般社団法人八日市まちづくり公社

◇ようかいち起業塾

「いつかは起業したい」「好きなことを仕事にしたい」という人を対象に、全5回の講座の開催を支援しました。

参加者19人
開業11人(うち市内9人)

主催 八日市商工会議所



◇コミュニティビジネス支援

多様化する地域課題をビジネスの手法で解決を目指す事業者の立上げを支援しました。

実績：1団体



「インクルーシブで誰もが自分らしさを追求できる場所を」
十人十色の幸せを創るスポーツクラブ運営プロジェクト

JYUYON 14 ACADEMY

◇しごとづくり応援センター

市内事業所が必要とする人材を確保するため、職業紹介や体験実習など、就労に向け支援しました。

事業所 新規登録数	求人票 登録数	求職者 登録数	職場体験 実習件数	職場見学 件数	紹介件数	採用者数
7	686	40	17	24	5	6

農産物ブランド化・就農

●耕地面積・農業算出額

【近畿地方 市町別】						
耕地面積（R6）			農業産出額（R5）			代表的な耕 種又は畜産
<u>1位</u>	<u>東近江市</u>	<u>8,270ha</u>	1位	南あわじ市	213億円	野菜
2位	長浜市	7,880ha	2位	紀の川市	196億円	果実
3位	丹波市	5,430ha	3位	神戸市	142億円	野菜
4位	高島市	4,960ha	4位	有田川町	130億円	果実
5位	豊岡市	4,820ha	5位	五條市	128億円	果実
			6位	丹波市	128億円	肉用牛
			7位	豊岡市	118億円	鶏
			8位	東近江市	110億円	米



●就農支援

支援メニュー	内容	補助上限額	実績
新規就農マッチング事業	NPO法人愛のまちエコ倶楽部と連携し、新規就農や第三者継承を支援		2件
集落営農リーダー育成補助	農業用ドローンの免許取得に必要な経費 農業関係の専門研修に必要な経費	上限10万円（1/3）	4人 260千円
次世代担い手確保・育成支援補助	新規就農者にハウス設置や空きハウスの修繕等に対して補助		5件 3,032千円
新規就農者育成総合対策経営開始資金	50歳未満の認定新規就農者に経営が安定するまでの間投資資金を交付	年間上限150万円 最長3年間	6件 9,000千円
集落営農活性化プロジェクト促進事業補助	集落営農の活性化に向けたビジョンづくり、その実現に向けた人材の確保などの取組を支援	各メニュー 合計1,000万円	3件 2,865千円

●「毎月8日はお米の日」プロジェクト

近年、国内の米の需要量が年間10万トンのペースで減少しており、「近畿一の米どころ」である本市の農業にも影響があります。

ご飯食の良さや健康的な食生活を推奨するため、「毎月8日はお米の日」として、この日は「もう一杯のご飯を食べよう」を合言葉に、近江米消費の機運醸成に取り組みました。



●儲かる農業への転換

支援メニュー	内容	補助上限額	実績
水田野菜生産拡大推進事業補助	農業所得の向上と市内産野菜の自給率向上のため、野菜の生産を拡大し、生産に取り組む農家を支援	拡大した面積（10a当たり） 1年目5万円、2年目3万円、 3年目1万円	13件 3,207千円
高収益作物生産振興事業補助	水田等を高度に利用し、野菜等を周年栽培できる輪作体系の確立及び収益性の高い野菜、果樹等の生産振興に資するため、生産等に必要な機械施設の整備を支援	メニューにより上限 5～100万円 (2/10～5/10)	15件 3,153千円

●林業の振興

◇林業生産性向上機械導入補助

効率的な森林施業を実現するため、市内に事業所を構える森林組合等の林業事業体の高性能林業機械及びICT機器等の導入を支援し、スマート林業を推進しました。



子育て支援

●出産

◇東近江市産後ケア事業

出産後1年未満のお母さんの身体や心をサポートするため、助産所や助産師などによる育児サポートを実施しました。短期入所型、通所型、居宅訪問型から選択できます。

◇不育症治療費の一部助成

産婦人科において不育症又は不育症の可能性があると診断された人の検査及び治療費（医療保険適用分）の一部を助成しました。

◇妊産婦医療費助成制度

妊産婦が風邪などの病気、けが、歯の治療などで医療機関等を受診したときの医療費に対する助成を、県内で初めて制度化しました。

●子育て支援

◇見守りおむつ宅配便

1歳までの乳児を養育している家庭に、専門のスタッフが毎月1,500円相当のおむつなどを宅配し、見守りによる不安解消と経済的負担を軽減しました。



◇保育料軽減

第3子以降の保育料を兄弟の年齢にかかわらず、その世帯の所得に応じ、無料又は半額に軽減しました。

【軽減内容】※所得制限有
第1階層～第7階層は無料
第8階層～第13階層は半額



◇子どもの医療費助成

乳幼児・小学生・中学生・高校生世代が通院や入院した場合の医療費について、所得制限なしで助成を実施しました。

【自己負担額】

乳幼児 無料
小学生・中学生・高校生世代
入院 1,000円/日（月額上限14,000円）
通院 500円/月（1医療機関）
調剤は無料

●里山保育

市内の幼稚園や認定こども園の5歳児を対象に、体験を通じて身近な自然の楽しさを知ってもらう里山保育事業を実施しました。また、市民団体「東近江さとやまNannies」との協働により、実施園を拡大しました。

令和5年 15園 ⇨ 令和6年 17園



●保育士確保

◇園見学ツアー・お仕事体験を開催 6月26日

保育の仕事に関心のある人や保育士資格又は幼稚園教諭免許を取得後現場から離れているが復職などを考えている人を対象に、見学・体験を行いました。



参加者 2人

◇「保育の仕事 就職フェアin東近江」を開催 5月25日・11月10日

保育の仕事に興味があり、就職を考えている人を対象に、市内の幼児施設紹介や保育内容ブース巡り、また民間園から園の施設や保育理念の紹介を行い、保育人材の確保に努めました。



参加者 34人 ⇨ 就職 9人

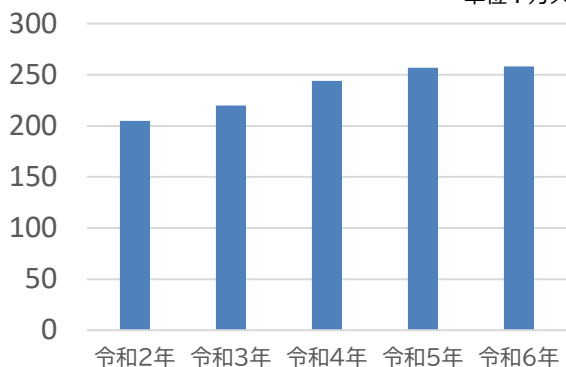


●観光入込客数

令和6年の数値は速報値です。

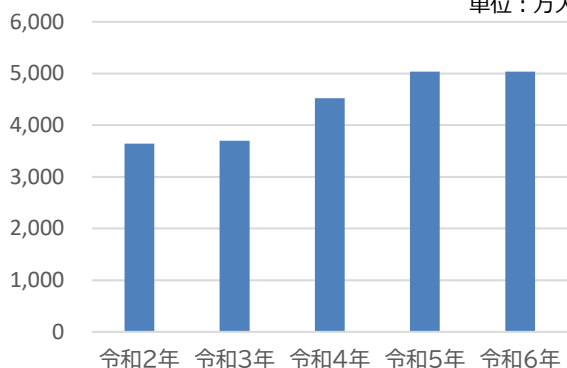
東近江市

単位：万人



滋賀県

単位：万人



単位：万人

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
東近江市	205	220	244	257	258
滋賀県	3,641	3,701	4,523	5,033	5,033

●観光施策

◇東近江市の魅力発見！レシートラリーキャンペーン ◇観光施設「能登川水車とカヌーランド」改修

8月にオープンした大型商業施設「コストコホールセール東近江倉庫店」を目的に本市を訪れた買い物客を市内飲食店や観光施設に誘導するため、同日にコストコと市内店舗で飲食や買い物をしたレシートで三方よし商品券(2,000円分)の抽選に申し込むことができるレシートラリーキャンペーンを実施しました。



第79回国民スポーツ大会カヌースプリント競技開催時の受入体制を強化するとともに、大会後にも多様な活用が図れるよう、「能登川水車とカヌーランド」の改修を行いました。資料館と芝生広場がリニューアルオープンしたほか、令和7年5月から資料館内にカフェがオープンしました。



◇SEA TO SUMMIT

自然とふれあいながら自分たちを取り巻く自然環境について再認識する環境スポーツイベント「びわ湖 東近江 SEA TO SUMMIT」を5月18日、19日に開催しました。

参加者は琵琶湖やのどかな田園沿いを経由しながら、最後は太郎坊宮の本殿に至る全長約34キロメートルにわたるコースを、本市の豊かな自然や歴史・文化を満喫しながら駆け抜けました。

参加者数 230名



●木地師のふるさと発信

◇木地師やまの子の家にてフォーラム開催

7月15日、木地師やまの子の家にて木地師文化フォーラムを開催し、ろくろ技術の拡大と近代産業の発展について講話をいただきました。

参加者 130名



◇ニュースレター発行

東近江市で活躍する木地師の紹介、木地師資料館の紹介や資料収集の案内などをまとめたニュースレター「木地師のふるさと」を発行しました。

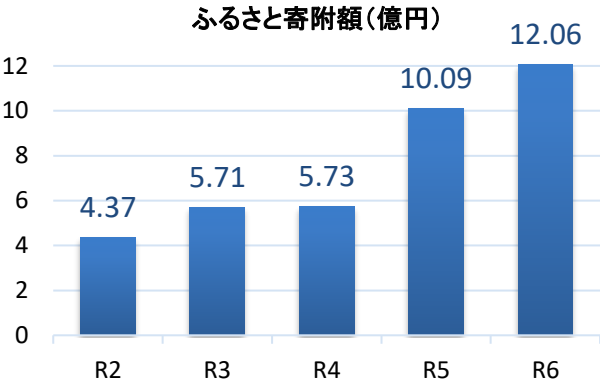


●ふるさと寄附

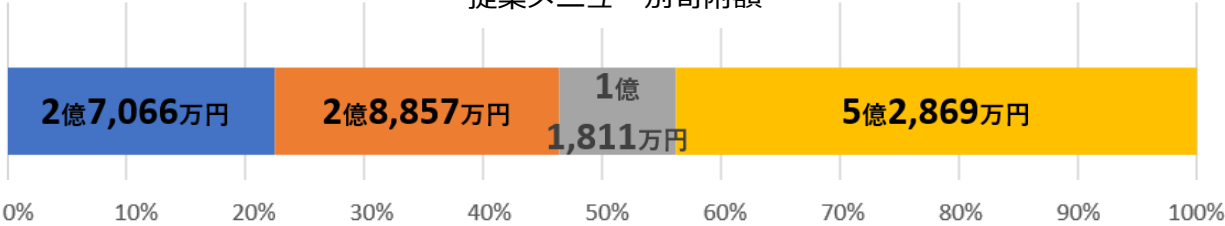
◇ふるさと寄附が3年連続で過去最高の寄附額を記録

ふるさと寄附金の総額が3年連続で過去最高額を記録しました。寄附額の約3割に相当する市内の物産等を返礼品とし、物産振興に努めました。

件数 14,620件 金額 1,206,028,000円



提案メニュー別寄附額



- 鈴鹿の山々から琵琶湖まで広がる自然や魅力ある歴史、文化、伝統を生かしたまちづくりに関する事業
- 誰もが暮らしやすいまちをつくるための担い手となる人材の育成に関する事業
- 安全で快適なまちをつくるための都市基盤の整備に関する事業
- 市長が必要と認める事業 (使途事業を選択されなかった分を含む。)

にぎわい創出

●中心市街地活性化

◇えいとてらす

八日市駅前の歩道上にテーブルや椅子を設置して、沿道店舗やキッチンカーで購入したものを飲食できる屋外カフェ「えいとてらす」を支援しました。



◇本町パサージュ

本町商店街を会場に様々な分野の作品や食品を展示、実演、販売し、自己を表現する場として開催される「本町パサージュ」を支援しました。



●市内における各イベントの開催

◇びわこジャズ東近江2024

4月27日、28日にびわこジャズ東近江が開催されました。



主催：びわこジャズ東近江実行委員会

◇聖徳まつり2024

7月27日に聖徳まつりが開催されました。



主催：聖徳まつり実行委員会



◇ぶらっと五個荘まちあるき

9月29日にぶらっと五個荘まちあるきが開催されました。



主催：ぶらっと五個荘まちあるき実行委員会

◇東近江秋まつり

11月3日（二五八祭）、4日（農林水産まつり）に東近江秋まつりが開催されました。



11月3日 二五八祭



11月4日 農林水産まつり

主催：東近江秋まつり実行委員会

●宿泊客等誘客の仕組みづくり

◇スポーツ大会・コンベンション等開催誘致

スポーツ大会、合宿、学会、大会などで市内宿泊施設で宿泊を伴う取組に対して、市外からの参加者の宿泊に対する助成をしました。

（市内開催の場合 1,000円/人※上限有）
（市外開催の場合 500円/人※上限有）

件数 11件 （市内開催11件、市外開催0件）



都市基盤

●公共交通

◇近江鉄道・路線バス 通学利用促進補助金

近江鉄道・路線バスを利用した通学の促進を図ることを目的とした補助金について、補助対象を拡大しました。

【近江鉄道・路線バスいずれかを利用】

1 箇月当たりの通学定期券

14,000円を超えた金額 → 12,000円を超えた金額

【近江鉄道・路線バス両方を利用】

1 箇月当たりの通学定期券

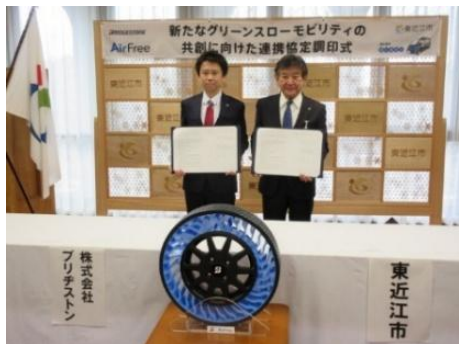
19,000円を超えた金額 → 17,000円を超えた金額



◇株式会社ブリヂストンとの連携協定締結

1月15日、東近江市と株式会社ブリヂストンは道の駅「奥永源寺渓流の里」を拠点とした自動運転サービス事業に係る連携協定を締結しました。

グリーンスローモビリティという低速電気自動車による公共交通サービスの運用の中で、空気充填の不要な次世代タイヤ「AirFree（エアフリー）」を実用化することにより、持続可能な循環型社会の構築に大きく貢献できることが期待されます。



●道路整備

◇能登川北部線

J R能登川駅周辺へのアクセス向上を目的として、新たな道路を整備しました。



東近江市制20周年記念事業

本市は令和7年2月11日に市制20周年を迎えました。市制20周年を市民の皆様と一緒に祝い、市を盛り上げていく契機とするため、令和6年7月1日から令和8年3月31日までの期間で東近江市制20周年記念事業を展開しています。



◇東近江市制20周年記念式典、20畳敷大凧揚げ

2月11日に八日市文化芸術会館で東近江市制20周年記念式典を開催し、市内外から来賓や招待者、一般参加者など総勢500人の来場がありました。

また、式典後に聖徳中学校で20畳敷大凧揚げ大会を開催しました。制作された20畳敷大凧「奉祝 東近江」が空高く飛揚しました。



◇東近江市新春マラソン大会

1月5日、東近江市制20周年を記念して東近江市新春マラソン大会を開催しました。



◇東近江市制20周年記念切手発売

市内郵便局において、東近江市制20周年を記念した切手が発売されています。

東近江市八景がデザインされており、本市の魅力や歴史を形にしたものとなっています。

